

Ⅲ 評価について

評価について

「中堅教諭等資質向上研修」では、研修の実施に当たり、それぞれの教員の能力、適性等について評価を行い、その結果に基づき、一人一人に研修計画を作成することが必要である。

このため、「中堅教諭等資質向上研修実施要項」及び「中堅教諭等資質向上研修実施要項細則」に定めるものの他、以下の点に留意して、教員の評価を実施すること。

1 「評価の視点」について

教員の評価に際し、職務遂行状況を的確に評価するために、各評価項目ごとに「評価の視点」を示している。

校長は、評価項目、視点及び評価基準を十分に理解した上で、授業観察などを通して教員の職務遂行状況を十分に把握し、その職務遂行状況を共通の「評価の視点」に基づき、評価を行うことが重要である。

2 評価基準「B」の考え方について

「評価の視点」に対し、それをクリアしたか否かを問うものであり、その水準をクリアした場合「B」というレベルであると判断することができる。

たとえば、ある教員が「教材の選択が適切であり、また、教材分析が正確かつ緻密である」という評価の視点に対し、日頃とても努力しているからといって「A」評価になるわけではない。視点に対し、クリアしていれば「B」で、申し分なくクリアしていれば「A」となる。したがって、「S」の適用は少ないものと思われる。

3 評価案作成に当たっての教頭の活用について評価の客観性や精度を高める観点から、複数の目で評価することが望ましい。

教頭は、日頃から教員と身近に接する中で、管理職として指導助言を行っていることから、教頭による評価を活用するとともに、校長自身も学校経営の責任者としての総合的な観点から、観察、分析、記録等に基づいて、より高度な判断により評価を行うこと。

4 評価案作成に当たっての主任からの参考意見の聴取について

主任は、担当する分野に関する事項について、連絡調整及び助言に当たることから、担当する分野を分掌する他の教員の職務状況を身近な立場で把握している。

このため、校長が評価案作成に当たり、評価の客観性や精度を高める観点から、必要に応じて主任から参考意見を聴取することが望ましい。

5 教員の自己評価について

評価案や研修実施計画書の作成に当たり、研修教員に自己評価を行わせ、それを聴取することや、教員の意見や希望を参考として聴取することは、研修教員に自らの課題や適性、得意分野等を再認識させ、研修意欲を喚起するとともに、研修内容をより適切なものとする上で、望ましいと考える。

ただし、評価案や研修実施計画書の作成は、校長の権限と責任において行うべきものであり、本人の自己評価や意見等をそのまま評価案や研修実施計画書に反映させることは不適切である。

※研修教員が自己評価を行う際に用いる「中堅教諭等資質向上研修 自己評価表」を、参考資料として準備しています。適宜活用してください。

(電子データは、教育センター学びの丘ウェブページからダウンロードできます。p20～p21 参照。)

6 面接及び評価結果の開示について

面接は、校長と教員双方のコミュニケーションの場であり、意思の疎通を図ることが大切である。

したがって、校長は、教員の指導・育成の絶好の機会であるとの認識に立ち、十分な時間を取り、資料を準備して教員と話し合うなど、面接の在り方を工夫すること。また、研修教員が自らの課題を明確に認識して研修に取り組むことが望ましいことから、必要に応じて評価結果等を開示して、教員の指導・育成に生かすこと。

7 研修終了後の評価について

中堅教諭等資質向上研修は、実施後も評価を行い、教員に対するその後の指導や研修に生かすことが求められている。

このことから、研修終了後の評価結果に関して、教員の職務上の成果と課題を明確にし、その後の研修等に生かす観点から、最終面接を丁寧に行うこと。

(中堅様式1)			
中堅教諭等資質向上研修【新規】 教員評価表 (研修実施前・研修終了後)			
学校名 () 研修教員名 ()			
1 自己のキャリアデザイン			
評価項目	評価の視点	評価	総合評価
キャリアデザイン	自己のこれまでの実践を振り返ることができる	S A B C	S A B C
	自己の実践上の課題を明らかにできる	S A B C	
	自己理解や教職についての理解を深めることで、自己の教職観を明確にし、今後の教職生活の基盤を立立てたりすることができる	S A B C	
2 各教科等(特別の教科 道徳を含む。)の指導			
評価項目	評価の視点	評価	総合評価
各教科等の指導方法	各教科等の専門的知識を基盤としている	S A B C	S A B C
	各教科等の指導方法を身に付け、実践している	S A B C	
	個に応じた指導や学習形態の工夫をし、学力の向上に努めている	S A B C	
授業づくり	授業を大切に、日々の授業力向上に努めている	S A B C	S A B C
	教育課程や年間指導計画の編成に積極的に関わっている	S A B C	
	積極的に授業研究に取り組み、授業改善を行っている	S A B C	
3 キャリア教育・生徒指導・学級経営			
評価項目	評価の視点	評価	総合評価
キャリア教育(道徳科含む)	キャリア教育の意義を理解し、組織的、計画的な推進に積極的に関わっている	S A B C	S A B C
	児童生徒一人一人の特性を踏まえ、社会的・職業的自立に必要な能力や態度の育成に努めている	S A B C	
	児童生徒が自らの生き方を考えたり、主体的に道徳を選択したりできるよう指導を行っている	S A B C	
生徒指導	児童生徒理解に努め、成長を促す指導や予防的な指導、教育相談の実践力を高めようとしている	S A B C	S A B C
	校内の協働的な指導体制や家庭・地域・関係機関との連携の大切さを理解し、生徒指導上の役割を履行している	S A B C	
	問題行動、不登校等の生徒指導上の課題への対応を適切に行っている	S A B C	
学級経営	学級担任の役割と職務内容を理解し、学級経営の工夫ができる	S A B C	S A B C
	学級経営目標や年間学級経営計画を作成し、適宜評価を行い改善に努めている	S A B C	
	児童生徒の居やすい人間関係の形成と学級づくりに取り組むとともに、学習環境や教室環境の充実に向けている	S A B C	
4 中堅教員としての役割			
評価項目	評価の視点	評価	総合評価
中堅教員のリーダーシップと組織マネジメント	国・県・市町村の施策等を理解し、中堅教員として学校教育目標の具現化や、年間指導計画の作成に参画している	S A B C	S A B C
	学年や校務分掌上の主任等としてリーダーシップを発揮するとともに、若年教員を支援している	S A B C	
	学校組織をつなぐ中核として、課題解決に向けて、校内研修や職員会議等の活性化に努めている	S A B C	
中堅教員としての役割	学校評価や教職員(自己)評価を効果的に活用している	S A B C	S A B C
	保護者との信頼づくりに努め、学校から地域への情報発信や広報、連携、協働による教育活動を進めている	S A B C	
	学校の安全管理と危機対応に留意して、日々の安全・安心な教育活動の向上に寄与している	S A B C	
5 地域との連携・道徳教育			
評価項目	評価の視点	評価	総合評価
地域との連携	地域との連携・協働の視点から自校の教育活動を理解している	S A B C	S A B C
	自立・共生・社会参加を目指す教育活動を推進している	S A B C	
	道徳教育の意義と内容を理解し、取り組んでいる	S A B C	
所見等			
学校名		学校長名	
教育委員会名 (市町村立のみ)		教育長名 (市町村立のみ)	
(記入に当たって) * 研修教員について、校長が評価を行うこと。 * まず、評価の視点ごとに4段階で評価すること。 S: 特にすぐれている A: よくできている B: できている C: 十分でない * その結果に基づき、評価項目ごとの総合評価を、S、A、B、Cの4段階で評価すること。 * 「所見等」の欄には、各項目の評価結果から、校長として研修教員の得意分野、伸ばしたい力、そのために必要と考える研修等について考察し、記入すること。			

中堅教諭等資質向上研修【新規】 教員評価表 (中堅様式1)

(p26～p27 に、記入に係る留意点を示している。)

中堅教諭等資質向上研修 自己評価表

研修教員名 ()

1 自己のキャリアデザイン

評価項目	評価の視点	評価	総合評価
キャリアデザイン	自己のこれまでの実践を振り返ることができる	S A B C	S A B C
	自己の実践上の課題を明らかにできる	S A B C	
	自己理解や教職についての理解を深めることで、自己の教職観を明確にしたり、今後の教職生活の見通しを立てたりすることができる	S A B C	

2 各教科等（特別の教科 道徳を含む。）の指導

評価項目	評価の視点	評価	総合評価
各教科等の指導方法	各教科等の専門的知識を高めようとしている	S A B C	S A B C
	各教科等の指導方法を身に付け、実践している	S A B C	
	個に応じた指導や学習形態の工夫をし、学力の向上に努めている	S A B C	
授業づくり	授業を大切にして、日々の授業力向上に努めている	S A B C	S A B C
	教育課程や年間指導計画の編成に積極的に関わっている	S A B C	
	積極的に授業研究に取り組み、授業改善を行っている	S A B C	

3 キャリア教育・生徒指導・学級経営

評価項目	評価の視点	評価	総合評価
キャリア教育 (進路指導を含む。)	キャリア教育の意義を理解し、組織的、計画的な推進に積極的に関わっている	S A B C	S A B C
	児童生徒一人一人の特性を踏まえ、社会的・職業的自立に必要な能力や態度の育成に努めている	S A B C	
	児童生徒が自らの生き方を考えたり、主体的に進路を選択したりできるよう指導を行っている	S A B C	
生徒指導	児童生徒理解に努め、成長を促す指導や予防的な指導、教育相談の実践力を高めようとしている	S A B C	S A B C
	校内の協働的な指導体制や家庭・地域・関係機関との連携の大切さを理解し、生徒指導上の役割を遂行している	S A B C	
	問題行動・不登校等の生徒指導上の諸課題への対応を適切に行っている	S A B C	
学級経営	学級担任の役割と職務内容を理解し、学級経営の工夫ができる	S A B C	S A B C
	学級経営目標や年間学級経営計画を作成し、適宜評価を行い改善に努めている	S A B C	
	児童生徒の望ましい人間関係の形成と学級づくりに取り組むとともに、学習環境や教室環境の充実に努めている	S A B C	

4 中堅教員としての役割

評価項目	評価の視点	評価	総合評価
中堅教員の リーダーシップと組織マネジメント	国・県・市町村の施策等を理解し、中堅教員として学校教育目標の具現化や、年間指導計画の作成に参画している	S A B C	S A B C
	学年や校務分掌上の主任等としてリーダーシップを発揮するとともに、若年教員を支援している	S A B C	
	学校組織の中核として、課題解決に向けて、校内研修や職員会議等の活性化に努めている	S A B C	
中堅教員としての信頼	学校評価や教職員（自己）評価を効果的に活用している	S A B C	S A B C
	保護者との信頼づくりに努め、学校から地域への情報発信や広報、連携・協働による教育活動を進めている	S A B C	
	学校の安全管理と危機対応に留意して、安全・安心な教育活動の向上に寄与している	S A B C	

5 地域との連携・道徳教育

評価項目	評価の視点	評価	総合評価
地域との連携・ 道徳教育	地域との連携・協働の視点から自校の教育活動を理解している	S A B C	S A B C
	自立・共生・社会参加を目指す教育活動を推進している	S A B C	
	道徳教育の意義と内容を理解し、取り組んでいる	S A B C	

研修の目標

* 評価の視点ごとに4段階で評価すること。

S : 特にすぐれている A : よくできている B : できている C : 十分でない

* 「研修の目標」の欄には、得意分野、伸ばしたい力、学びたい項目等について示すとともに1年間の研修目標を記入する。

この「自己評価表」については、
教育センター学びの丘への提出は不要です。

